

4.あごの矯正のお話

もし、あなた自身（あるいはあなたのお子さん）の歯並びが悪かった場合、あなたはどうかされますか？歯並びが悪いことなんか全然気にしませんか？仕方がないとあきらめますか？それとも、歯の矯正をしたい（させたい）と思われませんか？

現在、歯の矯正治療についてはすでに一般に広く知れわたっており、実際に治療を受けている方も多いため、おそらく知らない方はおられないと思います。歯の矯正はしたいが経済的あるいは時間的な制約から敬遠されている方も多いのではないのでしょうか。では、あごの骨格に問題があるために受け口や出歯などになり、きちんとかめない場合ならどうされますか？歯の矯正では対応できないようなあごの変形がある場合、手術によりあごの矯正を行うことができます。これを外科的矯正といいます。ここで注意していただきたいのは外科的矯正とは、もっぱら美容を目的とした整形手術のことではありません。あごの骨格の異常のためにうまくかめない、あるいは発音がしにくいなどの障害に対し、あごの骨を矯正することによりかみ合わせを改善し、ひいては顔ぼうも改善するための手術です。このため、一般的な歯の矯正とは異なり、健康保険適用となっております。

外科的矯正とはどんな治療なのでしょう？

あごの骨格の異常が疑われる場合、まずはどの部位に問題があるのか、手術の適応なのか、最適な手術法（治療法）は何かを決めるためにX線写真やあごの型をとり詳しく検査を行います。ひとくちにあごの骨の異常といってもさまざまなタイプがあり、上顎骨あるいは下顎骨の前突あるいは後退、前歯部あるいは臼歯部の開咬、あごの左右非対称などがあります。実際にはこれらのうちどれか一つだけではなく、複数の要因が組み合わさっているケースもあります。このなかで日本で最もよく見られるのは下顎骨の前突症、いわゆる受け口です。

検査の結果、外科的矯正が必要と診断された場合、最適な手術法はどれか、術前あるいは術後の歯の矯正は必要かといった要素を決定します。手術はあごの成長発育が終了してから実施しますので男性は18歳以降、女性なら16歳以降に実施します。歯並びの状態にもよ

りますが、安定したかみ合わせのためには歯の矯正もあわせて必要になる場合も多く、この場合は術前矯正を行います。

一般的な下顎前突の場合の治療スケジュールはだいたい次のようになります。

まず術前矯正が必要な場合は、半年から1年程度かけて矯正を行います。親知らずがある場合は顎の骨を切る時に邪魔になりますので手術の3ヵ月以上前に抜歯しておきます。手術は全身麻酔で行い、約2週間の入院が必要です。多くの場合、顎間固定といって上下の歯の固定を手術後1～4週間行います。必要なら術後矯正を半年から2年程度続けます。

以上、実際のケースにより異なりますので、あごの変形や著しいかみ合わせの不調でお悩みの方は一度ご相談下さい。

日本赤十字社和歌山医療センター

歯科口腔外科部

2018年6月